

平成23年11月14日

近畿日本鉄道株式会社

丸紅株式会社

学校法人近畿大学

～近鉄が新たに農業事業に参入～

近鉄・丸紅・近畿大学による三者連携で、
完全人工光型植物工場と農業用ハウス（太陽光利用型植物工場）を利用した
農業ビジネスを展開！

近畿日本鉄道株式会社（以下「近鉄」という。）丸紅株式会社（以下「丸紅」という。）学校法人近畿大学（以下「近大」という。）は、三者による産学連携スキームを構築し、完全人工光型植物工場および農業用ハウス（太陽光利用型植物工場）を利用した農業ビジネスを展開することとなりました。

今回の三者連携では、近鉄が丸紅・近大の協力の下、奈良県吉野郡大淀町の自社所有地に、完全人工光型植物工場と農業用ハウスを建設し、そこで生産した高品質で安全・安心な農産物を、近商ストアをはじめとする近鉄グループの流通店舗やホテル、レストラン等を通じて、お客さまにお届けします。

完全人工光型植物工場では、丸紅が開発した土耕式植物工場システムを採用し、近鉄がレタスなどの葉物類やサラダカブなどのミニ根菜類等の生産を行います。

また、今後、近大が丸紅の協力を得て、新しい品種や栄養価の高い野菜等を開発し、丸紅と近大が完全人工光型植物工場で試験的生産等を行い、近鉄が試験販売し、商業化の目処が立った段階で生産・販売していきます。

農業用ハウス（太陽光利用型植物工場）では、近鉄が丸紅と近大からの助言を得て、高糖度トマトを周年生産します。

流通やホテル、レストランなど多彩な事業をグループ展開する近鉄、様々な分野にグローバルなネットワークをもつ丸紅、そして「近大マグロ」や「近大マンゴー」などの独自技術の商業利用に実績のある近大が、それぞれの特徴を活かしつつ相互に連携しながら、農業ビジネスを展開していきます。

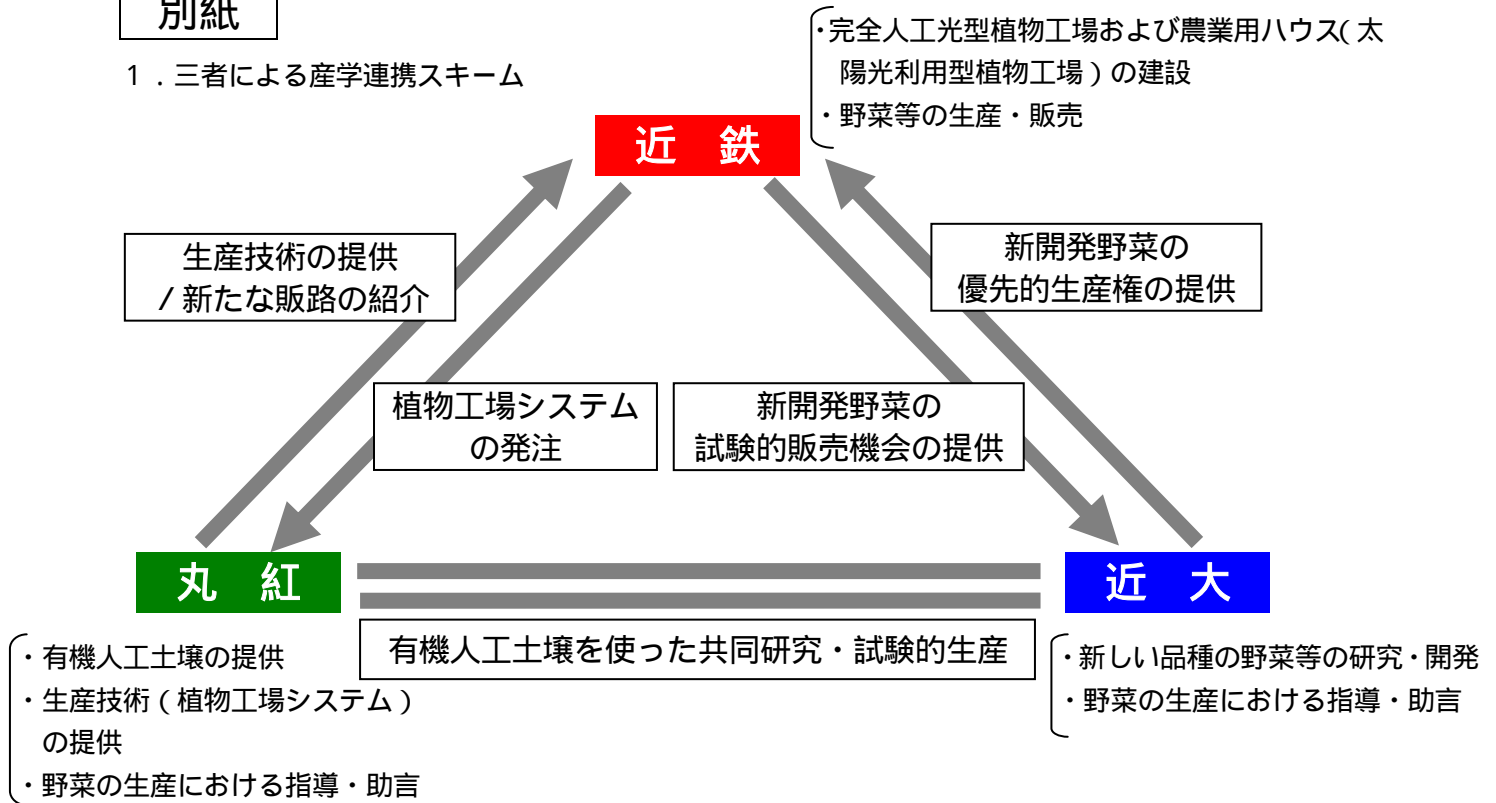
また、近鉄では、農業ビジネスに参入することにより、所有地を有効活用するとともに、沿線地域の皆様に高品質で安全・安心な農作物をお届けすることを通して、沿線価値の向上を図っていききたいと考えています。

なお、平成24年3月に施設建設工事着手、平成24年8月に生産開始、平成24年秋頃に初収穫・出荷開始を予定しています。

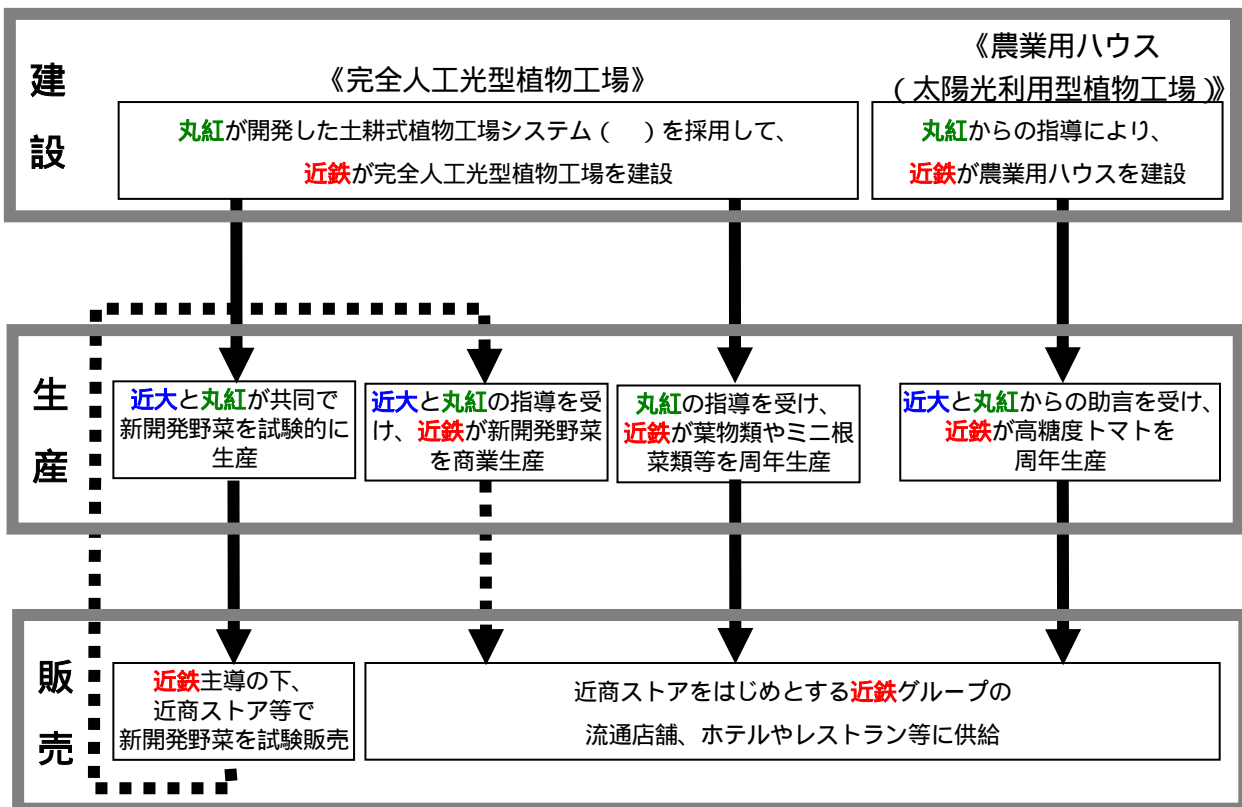
事業の詳細は、別紙のとおりです。

別紙

1. 三者による産学連携スキーム



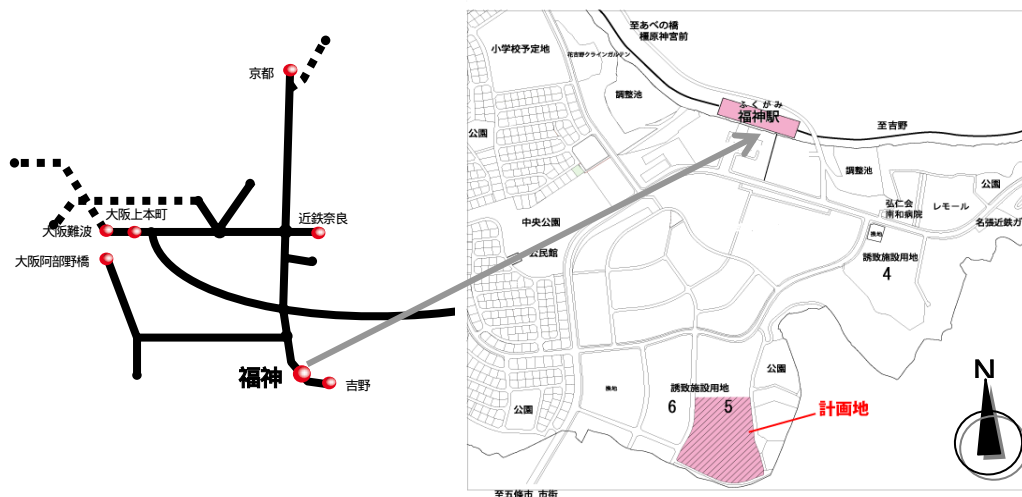
2. 事業の流れ



土耕式植物工場システム：

肥料や水分の保持力に優れた軽量の有機人工土壌「ヴェルデナイト」を用いた、丸紅が開発した植物工場システム。閉鎖空間に人工照明付きの多段式栽培棚を設置し、「ヴェルデナイト」を活用することで、季節を問わず、無農薬・有機肥料のみで野菜の促進栽培ができる。従来の水耕式では難しかった根菜類など、多品目の作物栽培も可能となるのが特徴。

3. 所在地 奈良県吉野郡大淀町大字福神（花吉野ガーデンヒルズ内近鉄所有地）



4. 施設概要

完全人工光型 植物工場	面 積	約 2 1 0 m ²
	栽培品目	・ レタスなどの葉物類やサラダカブなどのミニ根菜類 ・ 近大が新しく開発した野菜 ・ 高糖度トマトの苗
	特 徴	・ 6 段の多段式の棚を設置。 ・ 培土にヴェルデナイト（丸紅が開発した有機人工土壌）を用いた土耕式植物工場システムを採用することにより、多品種の野菜の生産が可能。 ・ 完全閉鎖型で、無農薬栽培を実現。 ・ 年間を通して、複数回収穫が可能。（すべてフリルレタスの場合で年 1 3 回収穫可能。）
	収 穫 量	年間約 4 0 万株（すべてフリルレタスの場合）（3 年目）
農業用ハウス （太陽光利用 型植物工場）	面 積	約 5 , 3 0 0 m ²
	栽培品目	高糖度トマト
	特 徴	・ 特殊なフィルムを導入し、食物に水分ストレスをかけて糖度の高い野菜を栽培。 ・ 冬の暖房用燃料の一部に使用済み天ぷら油やエンジンオイル等を利用し、環境に配慮したエコ栽培とコスト削減を実現。 ・ 長期多段取り栽培手法を採用することで、年間を通して、収穫が可能。
	収 穫 量	年間約 6 0 トン（4 年目）

5. 投資額 約 3 . 6 億円

6. 目標収入 3 年目に年間約 1 億円（平成 2 6 年度）

7. 今後のスケジュール（予定）

平成 2 4 年 3 月	施設建設工事着手
7 月	施設完成
8 月	野菜生産開始
秋頃	野菜初収穫・出荷開始

以 上